

学校再編に関する住民意見交換会 概要

- ・日時 平成29年9月2日（土）14時00分～17時05分
- ・場所 新治小学校体育館
- ・市出席者 内田教育長、豊田教育部長、中村総務部長、十枝企画財政部長
総務課 岩瀬次長（総務課長）、菅谷補佐、
企画政策課 吉田補佐、近藤係長、
学校教育課 鈴木課長、村澤主幹、平井主幹、野口係長、
教育総務課 久我次長（教育総務課長）、川崎補佐、東間係長、沼
- ・一般参加者 67名
- ・他参加者 教育委員3名、審議会委員6名

【14:00開会】

- 川崎補佐 : 資料確認、開会
- 内田教育長 : あいさつ
- 久我次長 : 資料に沿って新治小に関する学校再編案を説明（第1回と同じ）
第1回意見交換後の審議内容を追加説明

- ・本納小の崖について、特に若い世代で、統合は賛成だが本納小校舎を使うことへの懸念が多かった。災害時はどうなのかという意見もあった。

平成11年に行った調査では、笠森層と呼ばれる層は斜面として北側に向いており、地山は十分安定しているとのこと。すべりにくさは通常の約4倍の数値を示している。ただ、その表面を覆っている数十cmの部分が細かく剥がれ落ちているものと認識している。また、崖の上にかぶさっている木は、平成13年に一度伐採をしており、今後も状況を見ながら計画的に伐採していく。以上のことから、現段階で本納小を使用し安全に通っている。

- ・統合後の校舎として新治小を使用すべきという意見は、審議会でも出た。現在本納小に、ことばの教室や特別支援学級があり、教室数は工夫しても不足するので、現在の校舎では困難。
- ・将来の新設場所について、審議会では本納中との小中一貫をイメージしており、教育委員会としても十分庁内協議などをしていく。
- ・具体的な統合時期について、前回の意見交換会でも、スピーディーに進めてほしい、いや時間をかけてじっくり進めてほしいという両方の意見があったが、審議会では、子どもたちのことを考えると速やかに進めるべきという方向で一致している。現時点では、第一次実施計画の4年以内に第1段階の新治小と本納小の統合と考えている。
- ・にいある工業団地や本納ニュータウンによる人口増加を見極めるべきという意見について、新治小は今すでに児童数が極めて少なく、今年4月に統合した長南町の4小学校、来年統合する睦沢町の瑞沢小よりも少ない状況で、長生郡市でも最小である。保護者の意見を見ても限界であると考えている。
- ・小規模校のメリットを活かす具体的な方策について、例えば野鳥観察とか稲作体験とか、新治小独自のきめ細かな授業ということであれば、学校の裁量でやっていただいているので、今後学校と協議していくことになる。一人ひとりに目が届きやすいことについては、学校や先生方の努力によるものが大きく、大規模ではできないということではないと考えている。
- ・通学路や通学手段などについてたくさんご意見をいただいている。スクールバスは必須と考えており、統合決定後に、学校や保護者、地域住民の方などと準備委員会のようなものを立ち上げ、乗降場所など細かく決めていく。

【14:30質疑】

- 発言者 1 : 教育長のあいさつで気になったが、小さい学校でもいいということと地域が
(上太田) 過疎化してもいいということは違う。訂正をお願いしたい。
- 内田教育長 : 小さい学校でもいいという意見と、統合はいいけれど新治小に来てもらいた
いという意見は違うという趣旨だった。言葉足らずで申し訳ない。
- 発言者 1 : 子どもたちのことよりも国の政策ありきとを感じる。統合ありきで議論を進め
(上太田) ているのではないか。
- 内田教育長 : 教育委員会としては、ある程度の人数が必要と考えている。学校の使命は、
知識を増やすことや社会性を培うことであり、昨年の保護者アンケートでも、
ある程度の人数がほしいものと把握している。また、文部科学省の方針や手引
は無視できないと考えている。
- 統合ありきという点について、話の一番大元は子どもの人数が減ってきてい
るということ。日本全国ほとんどの地域で減っている。人数を増やす施策につ
いて、推計で7万人台のところを85,000人くらいに増やそうとしているが、そ
れでも今より減る。したがって、ある程度の規模を確保するためには、どこか
で統廃合しなければならない。審議会でも子どもたちのためにどうしたらよい
のかという視点で議論しており、その視点からご意見があればお願いしたい。
- 発言者 1 : 一定規模にするためには統廃合しかないということは、統廃合ありきという
(上太田) ことではないのか。審議会では統廃合しないという議論はされているか、審議
会会長さんにお伺いしたい。
- 中山学校再編 : 審議会では統廃合ありきで議論に入っていない。いろいろな意見が出ている
審議会会長 が、結論としては、大方の委員は統合がいいのではないかという意見である。
必ずしもいまの状態がいいとは言えない、ではいい環境を作るためにどう
いう方法があるのかと考え、この案に至っている。
- 地域から学校がなくなる寂しい気持ちはわかるが、子どもたちのためにどう
すべきか、どんどん意見をいただきたい。
- 発言者 1 : 統廃合反対という意見は1つもなかったのか。
(上太田)
- 中山学校再編 : なかったと思う。
審議会会長
- 発言者 2 : 資料が第1回と同じである。この前の意見交換会を踏まえ審議会でこう審議
(桂) されたという資料がないと困るが、いかがなものか。
- 久我次長 : 当初から2回開催する予定で、今回初めて参加する方もいるので、資料は同
じとし、8月28日の審議会で審議された内容は先ほど口頭で説明したところ。
- 発言者 2 : この前の意見交換会を受けて、審議会で新しい提案があったのか。
(桂)
- 久我次長 : 先ほどの繰り返しになるが、審議会に対し、前回意見交換会でこういう意見
が出たという報告をしたうえで、例えば具体的な統合の時期とか、崖について
などを審議した。統合の優先順位や内容は変わっていない。
- 発言者 2 : 前にも言ったが、本納から新治にあればよい。崖は、平時は安定しているの
(桂) だろうが、地震とか大雨の際はあてにならない。私からすればそういった環境
の中に行かせたくはない。
- 発言者 3 : 保護者の意見を聞きたい。
- 発言者 4 : 現状の1学年1ケタ、片手に満たない人数では不利を被るので、統合は仕方
(桂) ないし、やっていただきたいが、本納小を使うという点で心配は残る。想定外
の事態があってはならない。崖があって、校舎も今より古い、プールの利便性
など、人数以外のデメリットも見えてきて、子どもに納得させるのは難しい。
ある程度ハード面を整えていただいたほうが理解を得やすいのではないか。
- 発言者 5 : 本納小から新治小に通わせたいという保護者もいる。前回は本納からは1人
(吉井) しか参加していなかったが、本納では新治がくっ付くと嫌だという意見がある
のか知りたい。

- 発言者 6
(法目) :
- ゆくゆくは3校統合を目指す中、まずは新治と本納ということだが、子どもは環境変化に敏感なので、短期間で2回統合するメリットがよくわからない。1人の子や家庭で2回統廃合に巻き込まれることもあり得る。将来新設する考えならば、その時に一括で集まるということではないのか。
- また、スクールバスは統合決定後に決めるということだが、それで間に合うのか。プールも検討とあるが、将来新設するのであれば予算の無駄遣いという意見も出てくる。個人的には、ハードの面を考えると、絶対に本納小という考えはない。
- 発言者 7
(桂) :
- 小規模のメリットもあるし、クラス替えの必要性は疑問だが、正直3人5人というのはかわいそうだと思う。子どもは深く考えないかもしれないが、大人としての経験を踏まえるとそう思う。
- 子どもを中心に考えるのは確かだが、年配の方にとっては地域から学校がなくなるデメリットしかないので、何か対策を約束しないと反対が多いままになってしまう。計画はスピーディーに進めてほしいし、職員や市長が変わっても絶対やるということを約束してほしい。
- 発言者 8
(下太田) :
- 地域から学校をなくしたくないのはわかるが、人数がここまで減ってしまったらやむを得ないと思う。統合するなら3校一緒が良い。
- 崖が安定しているというのは15年以上前のデータ。ここ数年、世界的に想定外の災害が起こっている、避難場所にもなっていない、そういうリスクも考えて、本納小にするより新設した方が良い。子どもの安全性を第一に考えるべきと思うがいかがか。
- 川崎補佐
久我次長 :
- (今までの保護者のご意見に対する御礼)
- 前回本納の方が1人というのは、意見用紙を提出したのが1名ということで実際はもっといたのでご理解いただきたい。
- 審議会では、3校統合を意識しつつも、新設には時間がかかるため、新治小の統合は早くすべきという意見である。委員には保護者の方もおり、子どもの環境変化という話も出ている。
- プールについては、そこまでの道の確保や民間活用などいろいろな案があるが、もう少し詰めなくてはいけない状況である。
- 崖については、表面の部分が剥がれるだけと認識しているが、心配は重々承知したので、対策を検討していく。
- 発言者 8
(下太田) :
- 再編にあたり崖は改めて調査したのか。
- 久我次長 :
- 再調査はしていない。伐採は先ほど申し上げたように、計画的に検討する。
- 発言者 8
(下太田) :
- 危険だから避難所になっていないと思うが、なぜ危険なほうを使うのか。急激な雨や地震も考えて、人数が多い少ないではなく、できるだけ危険の少ないほうにすべき。教室が足りなければプレハブとか建てれば良い。無理に本納小を使うため、お金をかけて整備するよりいいと思うが、検討したのか。
- 豊田部長 :
- 教室数から新治小に入りきらないため、本納小という案になった。崖は再調査していないが、安全だと認識しているので現在本納小を使っている。いただいた意見をもとに、今後審議会等で検討する。
- 発言者 9
(柴名) :
- 教育委員会や審議会は、地元の切実な声を聞く姿勢が感じられず、合理的なだけの考えである。本納小には危険という表示板があり、プールやバスの乗降場所など、立地的に到底解決できる問題ではないが、それを踏まえてこういう案を出したのか。これを決めたのはいつなのか。もっと具体的な対策を伺う。
- 久我次長 :
- 7月21日の審議会で、優先順位の高いものとして案が出されたが、決定したものではない。この意見交換会を受けて、また審議していく予定である。
- 発言者 9
(柴名) :
- 現実的に、いまの本納小の場所では課題が解決できない。8月19日に提案があった、新治小への統合、本納小の新治小への新築移転、小中一貫校などの選択肢を考えるべきではないか。

- 久我次長 : 3校を一気に統合して小中一貫教育という意見も出ている。新治小を使う意見もあったが、将来的な豊岡小との統合、新設を見据えてこの案となった。また審議会上に挙げていく。
- 発言者 9 (柴名) : これからまた審議して、いい方向に持って行っていただきたい。
- 発言者10 (大沢) : 本納新治豊岡はどれも校舎が古く、将来的には新設とのことだが、新治小は築25年。耐用年数などもあるが、古いという判断はどのようにされるのか。
崖について、学校の許可を得て自治会で状況を確認し、資料をお配りした。岩が崩落し、オーバーハングがあり、木もかぶさり、3mほどのフェンスが設置してあった。安全性が確保できるのか非常に疑問だが、どう考えているか。
プールについても資料を配ったが、草や汲み取り式トイレなど、環境がどうなのかというのが実感。早急にということだが、敷地内に作るのか、それであればいつ、いくらくらいかけて整備するのか確認したい。
- 久我次長 : 公共施設について、本市では大規模改修が30年から35年、建て替えは60年から70年と想定している。
崖については、見た目は確かに危険と思うかもしれないが、層の向きから校舎側に大きく崩れることはないという調査結果。多くの意見をいただいているので、また審議会等で検討していく。
プールも実際に見て、決して良い環境ではないと思うので、対策を考えていく。仮に新しく作る場合、屋内型であれば3億程度、そうでないものなら1億以下になる。なお、補修は随時行っている。
- 発言者10 (大沢) : プールの用地はどこに確保するのか。環境整備も早急にやらなければならない。合併して人数が増えるのならなおさらである。いまの費用の話を知ると、経済的な面で、教室が足りないほうを何とかするのも選択肢ではないか。
勝浦市の学校統合は7、8年前から進めている。茂原市は昨年10月からで、あまりに早い。公共施設の統廃合を進めることもわかるが、新治地区を考えてほしい。住みたい人も多く、工業団地や住宅団地など将来性もある。まちづくりを考えたときに、自治会としては賛成できない。
- 豊田部長 : プールについては、いまの状態がよくないとは認識しているが、教育委員会としてできるだけことはしており、本納小で現在使っている。統合になったときは、民間活用を含めて検討していく。
- 発言者11 : 本納の方の意見が聞きたかったのだが、この意見交換会があることを本納の方は知っているのか。事務局では本納の意見をどこまで聞いているのか。
- 久我次長 : この意見交換会は、新治小から本納小という案なのでここで行っているが、両校とも保護者には学校を通じて連絡している。
- 発言者11 : 保護者でない本納の人が知らなかったが、新治で回った回覧は本納では回さなかったのか。
- 久我次長 : 自治会回覧は、本納、新治や二宮に限らず市内全区域で行っている。
- 発言者11 : 地元との話し合いが全くできていないと思うが、なぜそんなに急ぐのか。もっとじっくりゆっくりやるべきではないか。
- 豊田部長 : いま現在、新治小の1年生は3人しかいない。そういう状況から、子どもたちに早く充実した教育環境の中で過ごしてもらいたいと考えている。
- 発言者11 : いまの新治小の環境は悪いのか。先ほど、保護者アンケートで新治は65%が統廃合やむなし、または積極的にすべきとのことだったが、残りの35%の意見をどれだけ吸い上げられるのか。
先ほどから統合の話ばかりで、人数の少ないメリットが出てこない。繰り返しになるが、なぜそんなに急ぐのか。
- 豊田部長 : 新治小の授業などを見て、いい雰囲気だとは思いますが、本当にこのままでいいのかと思った。今後、子どもたちが成長して、変化していく社会の中で生きていくことを考えたときに、いま我々は何をすべきかと真剣に考えているので、今日聞いた意見を踏まえてまた審議していく。
- 発言者11 : 審議会の構成はどうなっているのか。これは後で調べるので答えは不要。
少人数がかわいそうというのはわかるが、教育委員会は少人数ならこういう

- ことができるというような努力をしてきたのか。また、2回合併するのは子どもに大きな負担だと思うが、どう考えているのか。
- 基本計画にある、児童生徒の教育環境が最優先というのはそのとおりだが、再編にあたっての配慮の中の、情報の発信、提供や地域住民の理解が進んでいない。また、跡地活用や他の計画との整合とあるのに、教育委員会だけで進めているように思える。以前、不確定要素が多いという話があったが、それは急いで策定しようとしているからである。何年もかけてじっくり説明して、我々地域住民と一緒に話し合っていたきたい。
- 豊田部長 : 新設がいつになるか、近い将来であれば一気に統合すべきかなど、いろいろ考えた上で、本日はこういう案で意見交換会を行っているが、皆さんの意見も聞きながら最終的に決めていく。
- ニュータウンや工業団地で人口が増えるまで待つという話について、一方でそれまで何年も今の状況でいいのか、子どもたちのために早く考えてほしいという意見もある。我々も審議会も悩んでいるところであり、今日の意見も参考にして実施計画を策定していく。11月頃というのは現在の目標であり、多少遅れることもある。
- 発言者11 : 不動産屋の話聞いても、学校がなくなったらますます人口が減っていく。住宅団地ができて住まなくなり大問題である。自治会を挙げて反対するので、肝に銘じてぶつかってきてほしい。
- 発言者12 : 人数が少ないと修学旅行や運動会とかで寂しかったり、保護者も大変な思いをしていると思うが、入学式とか卒業式は人情感あふれてすばらしい。新治小は新しくしたばかりなのに、どちらがいいか地域で考えず、教育委員会から本納小と示されるのは納得いかない。新治小のほうが環境がいいのではないか。
- 内田教育長 : 1つ前の質問のなぜそんなに急ぐのかということについて、1学年1ケタという非常に少ない状況は早急に解消しなければならないと考えている。
- 本納小の崖やプールの心配もいただいたが、不便な点はあるにしろ、現在の本納小の子どもたちは問題なく使っている。新治小では教室数が不足し、将来的に新設することを考えれば増築することは考えていない。また豊岡のほうに近い人もいて本納小が分割してしまうことなども踏まえ、この案を出した。
- 先ほどの、学校がないと住まないというのわかるが、個人的には、行く学校が複式学級の規模というの心配である。統合、新設して、人数がいる学校にスクールバスで通った方がいいという人もいるのではないか。
- 発言者13 (柴名) : なぜ小規模ではいけないのかという意見も含め、審議会に意見交換会の内容が反映されていないと感じる。
- 今日は他の部長さんも出席されているが、新治は工業団地や本納ニュータウン、圏央道の表玄関と人口増が見込める地域なのだから、教育委員会だけでなく茂原市挙げての問題としてしっかり討議していただきたい。今までの市の中の話し合いについて伺いたい。
- 中村総務部長 : 平成27年度に総合戦略を策定して、人口減少をくい止める施策もやっているが、人口減少に対応した施策も必要。人口が右肩上がりだった時代に建設してきた箱モノが多く、老朽化への対応も必要だし、公共施設を減らしていかなければいけない。教育委員会で子どもたちのことを考え学校を統廃合していくことは承知しているし、やっていかなければいけない施策だと考えている。
- 発言者13 (柴名) : 市当局で、この地区を守るために横の連携を取っていただきたい。教育部長にお伺いしたい。
- 豊田部長 : 本日来ているように、教育委員会、総務部、企画財政部などと話し合い、新治地区をどうしていけばいいのか、これからもさらに考えていく。
- 発言者13 (柴名) : 本納小の崖について、子どものためというのであれば審議会でよく話し合っていたきたいが、審議会会長いかがか。
- 中山学校再編審議会会長 : 十分検討していく。
- 発言者13 (柴名) : 今までの審議会や意見交換会の議事録を読んで、新治地区を守っていききたいという声が強かった。地元の声を反映できるようお願いしたい。

- 発言者14
(柴名) : 地元の審議会委員である平井さんにお伺いしたい。
新治地区は環境が整っており、茂原市のアンケート調査でも一番住みよいとなっている。今日までの審議についてどのように考えているか伺いたい。
- 平井学校再編
審議会委員 : 今年から審議会に参加している。私もここで生まれ育ち、母校がなくなるのには葛藤があるが、いま3人とか5人という状況をどうしたらよいのか最初に考えた。これから成長し人間関係を作っていくのに、大勢の中でもまれることは必要だと思う。新治小をなくしたくはないが、子どもたちのことを考えると、結果としてそういう形になるのは仕方のないことだと思っている。
- 発言者14
(柴名) : 学校がなくなれば地域は疲弊するので、本納小から新治小に動いてもらうという方向で頑張っていたきたい。
- 発言者15
(柴名) : 新治の各自治会を回って、説明会や意見交換会を実施していただきたい。
- 久我次長 : 要望として伺う。自治会やPTAとの情報共有は重要だと感じている。
- 発言者16
(柴名) : 皆さんの意見からは郷土愛にあふれ、小学校の存続という思いが伝わってくる。新治地区の歴史や、過去に多くの偉人が出ていることも含めて考えていただきたい。
- 内田教育長 : 偉人が多いというお話だが、教育委員会の考えは、いま少ない人数で学んでいる子どもたちをある程度の規模で学ばせた方が良いというところがスタートになっている。
統廃合の話はどの地域でも最後は同じ焦点になり、地域から学校をなくさないでほしいという方と大勢の中で学ばせたい方、今日もそうなっている。この2つの考えはどうしても相成り立たない部分があるが、出だしはいまの子どもたち、それからこれから入ってくる子どもたちの、少ない状況を解消してあげたいということ。この前の意見で、再編案は妥当とか、早急に進めてほしいという声もあった。今日出た意見についても審議していく。
- 発言者17 : 教育部長は先ほど新治小の授業を見てすばらしいと言ったが、それなのになぜかわいそうなのか。学校規模と学力の関係を調査したコールマン報告とか、グラス・スミス曲線とか、教育委員会は当然知っていると思うがどういう意味か。
- 鈴木課長 : 子どもの数と学力の関係についてはさまざまな資料があるが、一般的に人数が少ないほうが学力が高いとされている。ただ、学力にはいろいろな捉え方があり、新しい学習指導要領では、いまの小1が20歳になる2030年を想定して、変化が激しい時代を生きるために、今までの知識だけでなく思考力とかも重要とされている。そのためには、ある程度の人数の中で、たくさんの考え方を知る、たくさんの人の前で自分の考えを表現することが必要と考えている。
- 発言者17 : 一定の人数で競争が必要ということか。
- 鈴木課長 : 競争というよりも、たくさんの考え方を聞き、自分の考えと照らし合わせ、咀嚼しながら表現していくことが有効と考えている。
- 発言者17 : それは教師の努力で何とでもなるのではないか。
- 鈴木課長 : 教師の力も必要だが、子どもたちの間で活動してこそ力が高まると考えている。また、教員が育つには現場での経験が重要で、そのためにも教員が多い学校のほうがプラスになるという面もある。
- 発言者17 : 子どもたちの間でというのは当然だと思うが、少なければ少ないなりのやり方があると思う。複式学級がいけないと言うがメリットもある。小さいうちから競争させて、人のことを思いやる人間になるとは考えられない。そういう面から私は少数学校を続けるべきだと思うので、統廃合には反対である。
- 発言者18 : 少人数がかわいそうだから合併させようという話ばかりで、少人数でこういうことをやろうという発想がない。少人数だからできることもあると思う。こう考えて学校と相談したけど無理ということであれば、じゃあ話し合いをしようということになるのではないか。

前回、統合をスピーディーにという意見もあったということだが、本納小の崖やプールなどの実態を知って言っているのか疑問である。

統合に関しては文科省の指針を参考にしているという話があったが、茂原市あるいは茂原市教育委員会は、ちょっとでも反対する気がないのか。国が言っているからこうするというのはいけないと思っている。なぜ自分たちの発想をしっかり持たないのか。早急に決めずに、こういう話し合いをどんどんやっていただきたい。

内田教育長 : 私が先ほど言ったのは、本納小に統合という案が妥当だという意見や、それと別に、統合は早急にやってもらいたいという意見があったということ。

市教委の考えがないのかということについて、国の方針は無視できないと言ったが、例えば学習指導要領と違うことを教えると入試で困るということもあるということで、すべて国の言うとおりにするという事ではない。

発言者18 : 指導要領に従うことはわかるが、国のやっていることにも間違いがあるのではないか、市の考えを前に出してほしいということ。

発言者19 : 去年の6年生は3人で、修学旅行も電車の乗り継ぎなどで行ったと思うが、そういう大変な経験はなかなかできない。社会性を培う、自慢できる経験だったと思う。運動会や学校関係で保護者も心配なところがあると思うが、地域一丸となって対応していきたいと思っている。

豊田小にはスクールカウンセラーを設置しており、非常に相談件数が多いと伺っているが、規模などの設置基準と、相談件数について伺いたい。

鈴木課長 : スクールカウンセラーは県が配置するものであり、中学校は全校、小学校は14校中3校配置となっている。さらに小学校は、豊田小も含め4校で心の教室相談員を市の予算で配置している。心の教室相談員は各種相談プラス、教室に入って学習面での支援をすることもできる。件数については手元にいま資料がない。大きい規模の学校に入っているが、状況により必ずしもそうとは限っていない。

発言者19 : 規模の大きい学校で、登校拒否の相談事例はあるのか。

鈴木課長 : 詳しい内容は言えないが、保護者を含めた中での相談はある。

発言者19 : 教育委員会では詳しい内容は把握していないのか。

鈴木課長 : カウンセラーは相談内容を公表するものではなく、こちらで積極的な把握は行っていない。

発言者19 : 何か問題があったときに初めてわかるのか。

鈴木課長 : 何件ということはわかるが、具体的な相談内容があがってくるのではなく、何かあれば問い合わせる形になっている。

豊田部長 : 皆さんから新治地区を愛している気持ちをひしひしと感じている。本日の案を押し付けるものではない。全ての意見が通るものではないと思っているが、我々の気持ちもわかっていただき、何かいい方法を見出していきたい。

【17:05開会】